

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援マザルーム			
○保護者評価実施期間	令和7年9月1日 ～ 令和7年9月20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○従業者評価実施期間	令和7年9月20日 ～ 令和7年9月26日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○訪問先施設評価実施期間	令和7年9月1日 ～ 令和7年10月1日			
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	8名	(回答数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年10月2日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	心理担当職員が自閉症当事者であることから、自身の経験から子ども達の視野の狭さや特性、またその対策について、より的確にお伝えする事ができます。	心理担当職員が、自身の体験を元に、心理学で学んだ事を活かし、特性により生じてくる困りごとを、合理的配慮により解決する手段をお伝えしています。視覚支援を行う為に、リマインダーの持参と、コミック会話を行う為の筆記用具は常に持ち歩いています。	
2	児発・放デイと兼務でスタッフが訪問しているため、日頃療育を受けている時と同じ先生が支援することができます。	訪問先の先生方の邪魔や負担にならないよう、配慮しながら支援に臨んでいます。必要に応じて、姿勢保持や感覚刺激の為に、姿勢補助具や感覚グッズが合うかどうか、運動の専門士が訪問し、事業所の物を持ち込み支援する事があります。	
3	学校での困りごとの中で、療育で補える部分があれば、併設の児発・放デイにて療育を行い、連携を図る事ができます。		

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員が療育との兼務の為、ニーズが多くても希望通りの日程で支援出来ない事があります。	訪問のニーズが高く、実際に動ける訪問支援員に対してニーズが増えると、日程調整が難しくなっています。	訪問支援に行くことができる人員の育成が必要かと思われます。
2			
3			